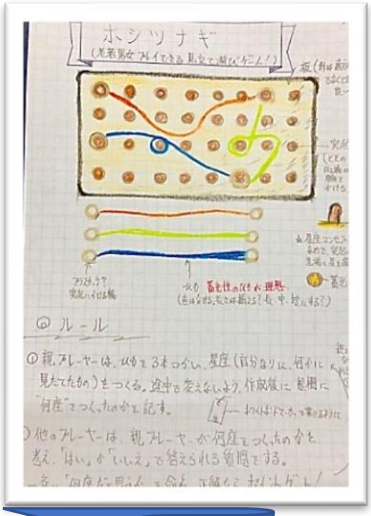
見立て遊びができるおもちゃづくり

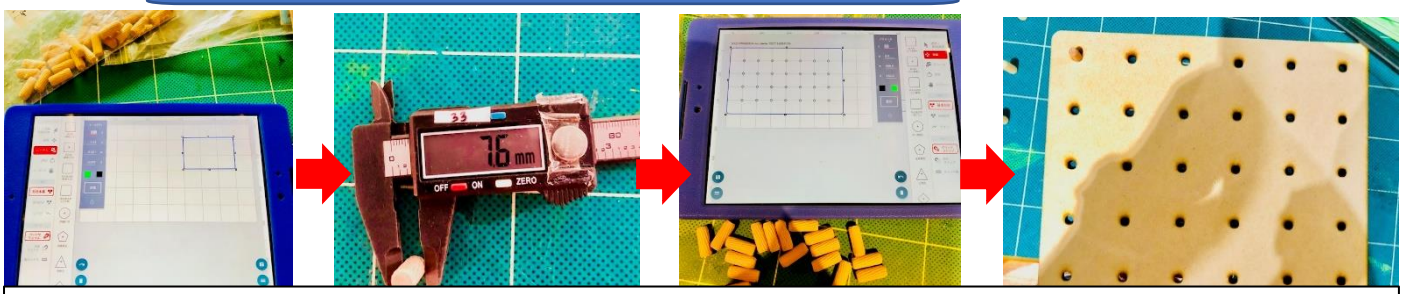
～最新機器・様々な素材・そして人々を繋ぐものづくりの場にて～

社会福祉法人にじのいえ　にじそらクラブ　　平山 雄大



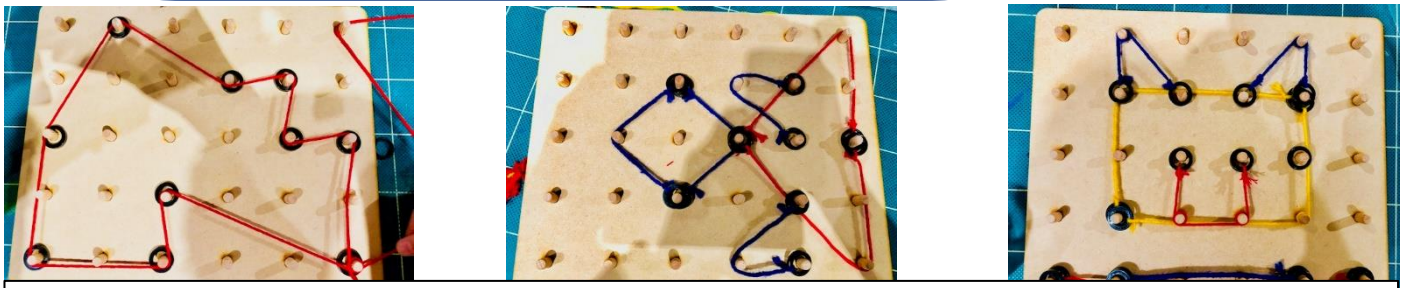
埼玉県坂戸市の社会福祉法人に勤めております、平山雄大です。現在、コミュニティー・スペースと学童保育で実践をしています。もともと唯一の「正解」がなく多様な遊び方ができるようなおもちゃやテーブルゲームを使ってこどもたちと遊んだり、こども同士が遊んでいる様子を観察したりすることが好きですが、このような私自身の興味や関心と「見立て」「多様な視点」というキーワードが混ざり合った自作のおもちゃを作ろうと、ある日ふと思いました。さっそく、簡単なイメージ図を描いてみることに。「よし、できた！でも、どうやって作ったら良いのだろう…」と悩んでいたそのタイミングで、こどもたちが様々な素材やタブレット、3D プリンターなどの最新機器でのびのびとものづくりができる場で働いている友人から、遊びにおいでよと声をかけていただくことができました。

①レーザーカッターで盤面づくり



「さて、のこぎりで板を切って、キリで穴を空けて…」と思っていたら、「それなら、レーザーカッターがいいですよ！」とのこと。専用のアプリで角が丸い長方形を描き、穴のサイズを測って均等な位置に並べていきます。すると、思い描いていた通りの形に！これはびっくり！

②おもちゃの仕組みづくり



できあがった盤面に突起をつけて盤面が完成！見立てをつくる上で重要な紐の長さを考えていると、「何作ってるの？」と、こどもたちが少しずつ声をかけてくれました。そして、小学 5 年生の男の子が実際に形を作って遊んでみることに（左の写真）。「なるほど！いろいろな見方ができるおもちゃなんですね！」と、私の意図を感じ取ってくれました。紐の長さや本数などのアドバイスを彼からもらったことで、ついに完成！真ん中は、私が試遊して作った魚に、中学生の女の子がヒレ（赤い尾びれの部分から出ている青い膨らみ）を付け加えたもの。右の写真は同じく私が試遊で作った猫？鬼？ですが、ここで使われている黄色い紐は、小学 5 年生の男の子のアドバイスで作られた長さの紐です。

のびのびと、生き生きと、それぞれが作りたいものを形にすることができる場。私がイメージしたおもちゃが形になったのは、たくさんの素材や最新機器のおかげでもあります。しかしそれ以上に、多様なアイディア 1 つひとつを大切にする雰囲気に満ちている環境やそれを生み出すスタッフの方々、表現を重ねる中で自分と他者それぞれの良さを認め合い共に新しいものを生み出す喜びを知っているこどもたちがいたからだと思っています。点と点だったものが、様々な方向へと伸びていく「ものづくり」という紐が繋いでいき、思いもよらない形が生まれる―この日の体験を象徴するような、そんなおもちゃができました。